

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日:

事業所名: 放課後等デイサービス 放課後等デイサービスゆきんこの森

対象人数(保護者)25人 回答者数 16人 回収 64%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	3		2
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	5	1	2
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	6		3
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	2		
適切な支 援の提 供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1	1	
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	2		1
	⑦	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	16			
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	2	1	2
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	3		
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	3		1
保護者 への説 明等	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	5	6	4
	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	1		
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	1		
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	3	5	5
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14	2		
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	2	1	
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	1	1	
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		5	5	6
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	2	1	1
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	1	1	1
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	1		
㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16				
非常時 等の対 応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	2		2
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	2		2
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	1		3
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13	1		2
満足 度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	1		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	14	1		1
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	13	1	1	1

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービスゆきんこの森		令和8年 1月 22日			
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		利用定員に対して全体に目が届くスペースになっている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		基本的に適切である。	マンツーマン等個別対応が必要な場合、配置人数に課題がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	2	階段に手摺が設置されている。学習室や活動をする空間が区別されている。	障がいの状態に応じての完全なバリアフリーではない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	朝と終わりの毎日の掃除をしている。活動では児童も掃除活動を行っている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		相談室や静養室があり個別の部屋を使用できる。児童が落ち着きたい時等使用できる。	室内に死角ができる場合職員が見守り配置する。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	朝礼や終礼での情報共有状態確認、問題把握、改善を行っている。	朝礼に参加できない職員は連絡、共有事項ノートで確認を行っている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		送迎時および、ラインや電話等家庭連携や家庭状況の把握や意向確認を行っている。	適宜改善に務めていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日の朝礼や終礼、又はミーティングを行い業務改善に務めている。	職員全員で話し合い改善に務めていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		今後、検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	1	3	外部研修をいつでも受けられるような体制になっており、法定研修はもちろん必須だがその他研修、送迎について等も受講できる。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		ホームページ上で公表されており、いつでも確認できる。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		保護者様や自動に最近の様子について聞いたりする中でニーズや課題について聞き取り個別課題をふまえた計画書を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員にも最近の様子やなにか変わった点はないか等、聞き取り、最善の利益を考慮した計画書作成を行っている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別課題等は書き出して一覧にして確認できるようにしている。また、回覧しサインをするようにしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		定期的にあセスメントを行い、日々の子供の様子をみながら確認している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		個別支援計画書に「本人支援」「家族支援」「移行支援」を記載しており、保護者様にわかりやすくお伝えしておりサインを頂いている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員間で話し合いのもとに決定し、確認し担当の割り振りを行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		毎日、来所する児童もいるため内容については毎回違うように配慮している。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		活動内で集団活動を行っており目的を持った支援を行っている。個別活動では、その児童の発達課題について支援を行っている。	
20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎朝の朝礼で確認を行っており、活動担当から、内容等の周知、来所児童について情報共有を行っている。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		終礼で確認を行っており、次回の支援につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		毎日、支援後にサービス提供記録を記入して検証、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年に一回、年二回行っており、見直しの機会を設けている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	2	2	生活技能の向上や学習支援、集団活動、創作活動を行っておりコミュニケーション能力向上やルールを守る集団活動を行っている。	地域交流の機会については今後、検討していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		日々の支援の中で自己表現力や社会性を身につけ将来の自立に向けて自己選択できるような支援を目標としている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		担当や相談支援専門員さんと連携し情報共有を行っている。会議参加前には職員にも聞き取りを行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	3	協力を得られるよう普段から連絡を取り合い連携できる体制にしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		送迎時に担任や保護者に確認する等行い連絡調整情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		部会や担当者会議等で情報共有できるように努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2		今後あれば適宜行っていく。就労継続支援や就労選択支援につなげていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3		そのような機会を設けるようにしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4		地域交流について今後の課題として考えていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		参加しており、地域課題や事例検討等の情報共有を行っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		児童の様子等送迎時や面談の際にお伝えしておりモニタリングの際等、活動の様子を保護者様に見ていただいている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		十分な家族支援ができていないため、今後の課題として考えていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		説明は書面を通して行い、理解を得るよう努めているが細やかな説明を心がけている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		面談時には必ずニーズや要望を聞き取りしている。子どもと保護者様の意思の把握に努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		対面での説明後、同意を得てサイン、押印をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		家族支援については課題もあるがレスパイト支援が必要な場合もあり適宜、面談や直接話す機会を作り関係機関へつなげたり等寄り添った選択を心がけている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		4		保護者様同士の交流の場を設けるよう今後の課題にする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情等があった場合は必ず「報連相」を行い迅速な対応や改善、再発防止を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		月に一度、ゆきんこの森だよりにて活動内容の報告や写真で様子をお伝えしている。活動スケジュールもラインでお送りしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報には漏えい等がないように努めている。また、保護者様に写真掲載の確認、同意を得る等行っている。	

非常時等の対応	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		気持ちを伝えるのが苦手な児童に対しては筆談をする等コミュニケーションを行っており、手段としてどのような方法があるのかは都度考えて共有している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	地域の文化祭等は参加している。	今後検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		毎月の避難訓練等で実施している。	緊急時対応について保護者様に周知や保護者様を含めた連絡、連携、児童の引き渡し等の確認、検討が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		毎月の避難訓練等で実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	1	具体的な対応方法は訪問看護の看護師に研修を受けて周知している。また、色々なケースがあるため、保護者様や相談員さんとの状況の把握、確認をしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	2	保護者さまより聞き取りを行っている。児童からも話を聞き確認を行い意思の指示書に基づく対応を行う。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	不審者の侵入に備え「さすまた」を準備している。今後、十分な訓練を行っていく。避難訓練図の掲示を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			保護者様にも具体的な説明を行い、周知を行い同意をいただく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		事業所内外でヒヤリハットに記入するようなことがおきれば速やかに記入を行い再発防止に向けて検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待や身体拘束について、職員間で共通認識を持ち気になる事案があった場合は共有し、状況把握を行う。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		個別支援計画書に記載しており、保護者様にサイン、同意をいただいている。気になること等があった場合は、共有し状況把握を行う。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスゆきんこの森		
○保護者評価実施期間	令和7年12月16日		～ 令和8年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年12月16日		～ 令和8年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の情報共有体制が確立されている(朝礼・終礼での確認、連絡共有事項ノートの活用、ミーティングでの業務改善)	活動プログラムの固定化防止(毎日来所する児童に対して毎回異なる内容を提供)	町内会の地域の清掃活動など参加できるものには積極的に参加していく
2	個別支援計画の作成・共有プロセスが充実している(職員への聞き取り、個別課題の一覧化、回覧・サインによる確認)	児童の自己選択・自己決定力を育てる支援(自己表現力や社会性を身につける支援目標の設定)	モニタリング時に保護者が活動の様子を見学できる機会の提供
3	保護者との日常的な連携が密である(送迎時の情報交換、LINE・電話での家庭連携、面談でのニーズ把握)	定期的なアセスメントと日々の行動観察を組み合わせた児童理解(フォーマル・インフォーマル両面からの確認)	ヒヤリハット事例の共有と再発防止検討の継続(速やかな記入と検討の実施)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価が未実施である(「はい」1名/4名)	マンツーマン等の個別対応が必要な場合の職員配置数に課題がある	第三者評価の導入と地域交流機会(放課後児童クラブ・児童館との交流等)の創出を検討する
2	地域の関係機関(保健・医療・障害福祉・教育等)との連携体制が不十分(「はい」1名/4名)	障がいの状態に応じた完全なバリアフリー化ができていない	緊急時対応について保護者への周知強化と、保護者を含めた連絡・連携・児童引き渡し訓練の実施
3	職員研修の機会確保や児童発達支援センターとの連携が限定的(「はい」各1名/4名)	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や保護者同士の交流機会の提供が十分でない	卒業後の障害福祉サービス事業所等への移行支援体制の構築(就労継続支援・就労選択支援へのつなぎ)